

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.00(287例)です。第9週(2月27日～3月4日)以降、定点当たり報告数は「7」前後で推移しています。3月に京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎の検体から、ノロウイルスGⅡ型が1件、ロタウイルスが3件、アデノウイルス40/41型が1件検出されており、ロタウイルスが増えています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、2.10(86例)で、第8週(2月20日～2月26日)以降過去5年平均値を大きく上回っています。行政区別では西京区で大幅に増加しています。

◆ 定点医療機関の追加について

第11週から左京区の3定点が追加され、インフルエンザ定点 68, 小児科定点 41となりました。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は12.91(878例)で、先週(13.06)とほぼ同じです。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 9例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 7例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 78例(肺結核 25例, その他結核 20例, 潜在性結核感染者 33例)うち喀痰塗抹陽性 16例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	12.91	878
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.00	287
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.10	86
	③ 水痘	0.76	31
	④ 手足口病	0.27	11
	④ 流行性耳下腺炎	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

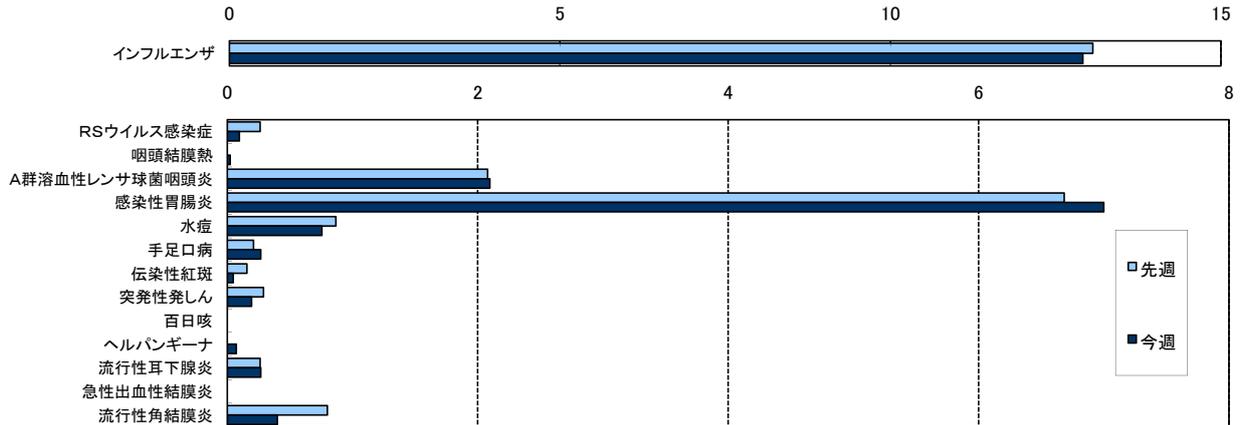
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成24年3月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

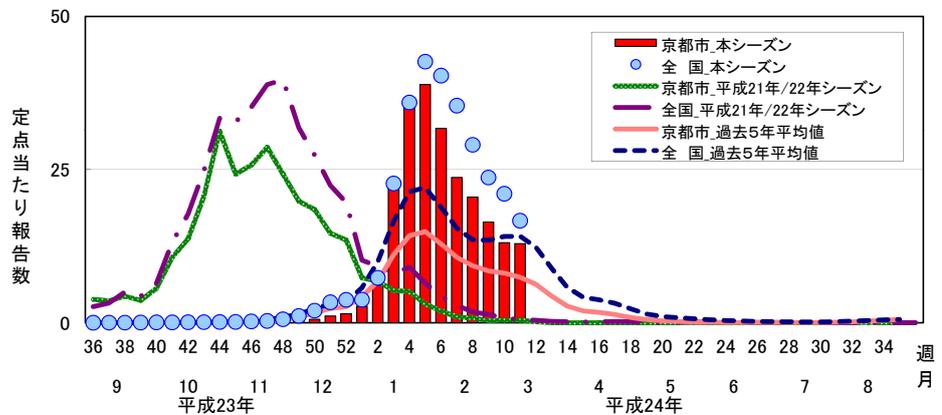
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第11週)と先週(第10週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第7週	1,541
第8週	1,334
第9週	1,068
第10週	849
第11週	878
累積報告数 (第36週以降)	14,793

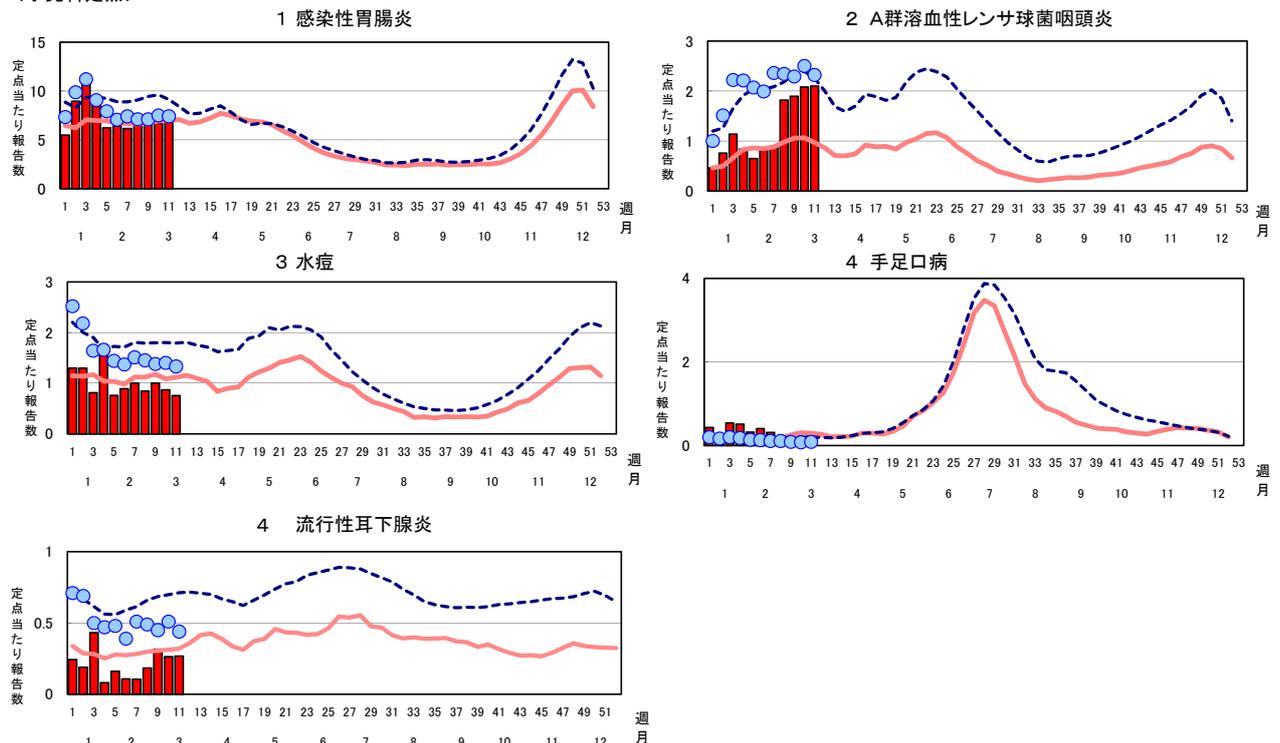


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



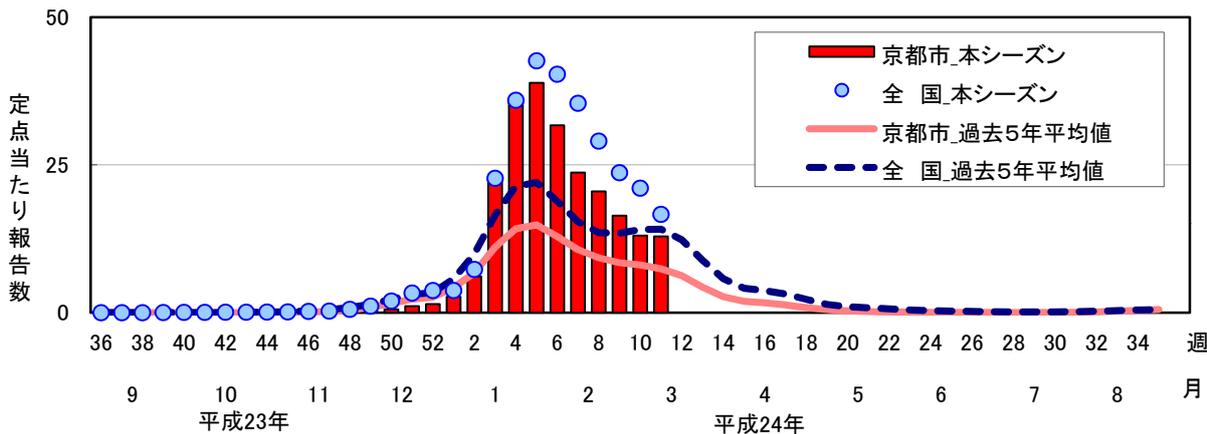
第11週(3月12日～3月18日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は12.91(878例)で、先週(13.06)とほぼ同じです。依然として注意報レベルの「10」を上回っています。

京都市衛生環境研究所で、3月に受け付けた検体から分離、検出されたインフルエンザウイルスはA(H3)亜型 1例、B型 6例で、B型の割合が増加しています。全国でも、B型の割合が第9週に約50%を超え、第11週は83.3%にまで増加しています(平成24年3月26日現在)。

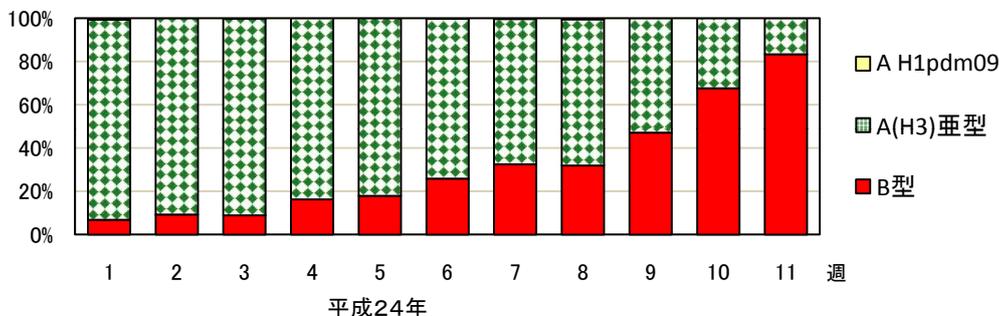
過去のシーズンでは、A(H3)亜型流行後、B型が流行すると、定点当たり報告数が「1」以下に下がる時期が遅くなる傾向があります。その1例として、平成10年/平成11年シーズンのインフルエンザの推移をみると、定点当たり報告数は一旦減少後、増加しています。今後の動向に御注意下さい。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



※過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

全国のインフルエンザウイルスの検出割合の推移



京都市のインフルエンザの推移(平成10年/平成11年シーズン)

